

青森県

地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

人口10万対医師数は、医師不足が深刻な東北の中でも、岩手県に次いで2番目に低い水準にあり、二次医療圏で津軽圏域以外は全て全国平均以下となっており、医師数の絶対的な不足と地域偏在が大きな課題となっている。

このため、県としては、地域全体で医師及び医師を目指す若い人を支え、育てるシステムを作り、青森県に定着するためのグランドデザインが必要であると考え、3つの戦略「優れた医育環境（医師が学ぶ環境）」「意欲が湧く環境（医師が働く環境）」「仕組みを整える」による中長期を見据えた総合的・抜本的な「良医を育むグランドデザイン」を策定し、これに沿った取組を行っている。

<主な取組>

I 優れた医育環境（医師が学ぶ環境）

- ① 医師を志す中学・高校生の段階の取組（ドクタートーク、医療チュートリアル体験、外科手術体験セミナー）
- ② 医学生の段階の取組（弘前大学医師修学資金制度、弘前大学における地域医療実習、県外の医学生地域医療実習、臨床研修合同説明会、知事と弘前大学医学部生の懇談）
- ③ 臨床研修医の段階の取組（臨床研修医セミナー、臨床研修医ワークショップ）
- ④ 指導医の段階の取組（指導医講習会）

II 意欲が湧く環境（医師が働く環境）、III 仕組みを整える

- ① 自治体病院の機能再編成（西北五地域）
- ② 女性医師の働きやすい環境づくり
- ③ 住民が支える地域医療（地域医療研究会）

【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

【設問5】に記載の事業の他、

地域医療支援センターに、卒業後の一定期間県内自治体医療機関等勤務（義務期間の半分の期間は町村部中小医療機関勤務）を資金返還免除条件とする医師修学資金制度を連動させ、同奨学資金被貸与医師をセンターに登録し、センター専任医師が大学等と調整し作成する勤務プログラムに基づいて県内自治体医療機関等に配置する仕組みとしている。

この配置に当たっては、自治体病院の再編・ネットワーク化が進展している地域を優先するなど再編・ネットワーク化を促進する配置方針としている。

【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。(あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など)

- ①無料職業紹介実績2名
- ②医師修学資金特別枠被貸与者の勤務プログラム作成数3名(内科、外科、泌尿器科)
- ③県内臨床研修病院初期研修採用者数65名
- ④県外医学生に対する進路相談会実施箇所及び参加学生数 9都市 50名
- ⑤UIターン等登録医師(H23年度)(義務年限自治医、修学資金特別枠含む) 8名

【設問4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点(課題)があれば、ご記載ください。

- ①町村部の中小医療機関勤務を義務づけられる奨学金被貸与医師の地域医療に対する意識醸成(モチベーション)を図ること。
- ②へき地等において医療ニーズの高い、いわゆる「総合医」の育成を図ること。

【設問5】

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

- <医療人財早期育成>
- ①ドクタートーク(中高校生対象)
 - ②医療チュートリアル体験(高校生対象)
 - ③外科手術体験セミナー(中高校生対象)
- <臨床研修>
- ①臨床研修病院合同説明会の開催(県内、東京、大阪、福岡)
 - ②指導医養成講習会(年2回)
 - ③研修医セミナー、研修医ワークショップの開催
 - ④医学生等のための進路相談会(県外10都市予定)
 - ⑤弘前大学卒医師県内定着促進事業
 - ・医学生との懇談会
 - ・地域医療(へき地医療)実習
 - ⑥県外医学生のへき地医療等医療実習(短期1週間程度10名、長期1月間程度5名)
- <その他>
- ①総合医育成支援事業
 - ・指導医養成
 - ・プログラム構築

[地域医療支援センター概要図]

